

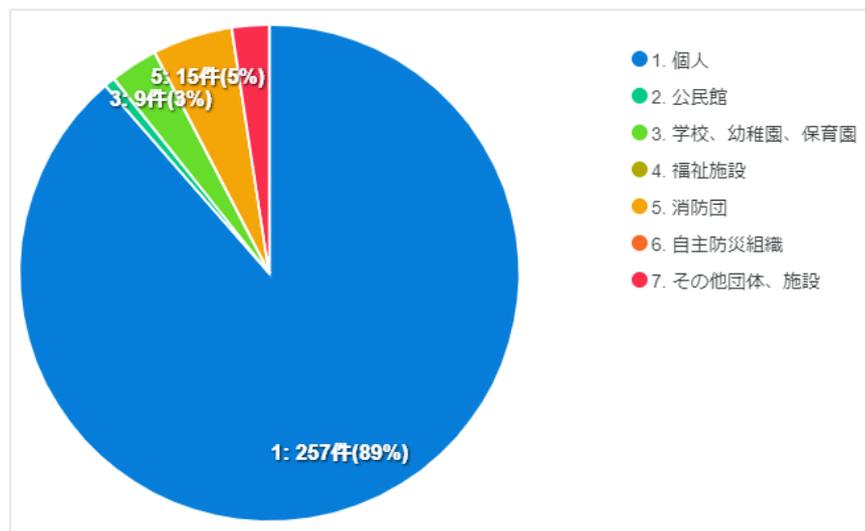
令和6年4月3日発表津波警報に関する防災アンケート 集計結果

1. 実施期間：令和6年4月10日から令和6年4月25日までの16日間

2. 総回答数：290件

3. Q1 回答者区分

選択肢（回答者区分）	回答件数	回答割合
① 個人	257件	89%
② 公民館	2件	1%
③ 学校、幼稚園、保育園	9件	3%
④ 福祉施設	0件	0%
⑤ 消防団	15件	5%
⑥ 自主防災組織	0件	0%
⑦ その他団体、施設	7件	2%



個人や、公民館、学校等、様々な立場から今回の津波警報によるアンケートへご回答頂きました。
多くの皆様のご協力ありがとうございました。

この度頂いたアンケート結果を今後の防災・減災対策に活用させていただきます。

【「個人 (257 件)」について】

4. Q2 お住いの地域 (個人のみ) ※人口は、令和 6 年 3 月末時点の人口動態票より

選択肢 (居住地域)	アンケート 回答件数	アンケート 回答割合	人口割合 (R6.3 月末)	人口に対する 回答割合
① 竹富島	28 件	11 %	8 %	8 %
② 黒島	19 件	7 %	5 %	9 %
③ 小浜島 (嘉弥真島含)	21 件	8 %	16 %	3 %
④ 小浜島 (細崎)	9 件	4 %	2 %	9 %
⑤ 波照間島	24 件	9 %	11 %	6 %
⑥ 新城島	0 件	0 %	0.2 %	0 %
⑦ 鳩間島	5 件	2 %	1 %	9 %
⑧ 西表島東部地区 (豊原)	11 件	4 %	4 %	7 %
⑨ 西表島東部地区 (大原)	19 件	7 %	7 %	7 %
⑩ 西表島東部地区 (大富)	13 件	5 %	7 %	4 %
⑪ 西表島東部地区 (古見)	4 件	2 %	1 %	7 %
⑫ 西表島東部地区 (美原、由布島、高那)	1 件	1 %未満	2 %	2 %
⑬ 西表島西部地区 (船浦)	7 件	3 %	5 %	3 %
⑭ 西表島西部地区 (上原)	33 件	13 %	6 %	13 %
⑮ 西表島西部地区 (中野)	10 件	4 %	6 %	4 %
⑯ 西表島西部地区 (住吉)	19 件	7 %	7 %	7 %
⑰ 西表島西部地区 (浦内)	7 件	3 %	3 %	6 %
⑱ 西表島西部地区 (干立)	7 件	3 %	2 %	7 %
⑲ 西表島西部地区 (祖納)	8 件	3 %	3 %	7 %
⑳ 西表島西部地区 (白浜)	10 件	4 %	3 %	7 %
㉑ 西表島西部地区 (船浮)	2 件	1 %	1 %	5 %
全体	257 件			6 %

各公民館単位で選択肢を設けましたが、多くの地域より回答を頂きました。

令和 6 年 3 月末時点の人口動態票を基にした人口割合と比べても、ほぼ同じ数値となりました。

中でも、上原地区は「回答割合」及び「人口に対する回答割合」が共に 13%で他地区に比べて高く、津波に対する防災意識 (関心) が高い傾向にあると考えられます。

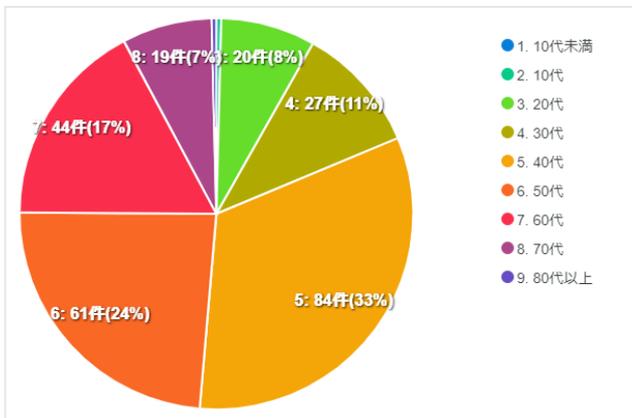
5. Q2 性別 (個人のみ) ※任意項目

選択肢 (性別)	回答件数	回答割合
男性	95 件	37 %
女性	159 件	62 %
未回答	3 件	1 %

男性に比べ女性が約 1.6 倍多い結果となり、女性の方が津波に対する防災意識 (関心) が高い傾向にあると考えられます。

6. Q3 年齢（個人のみ）

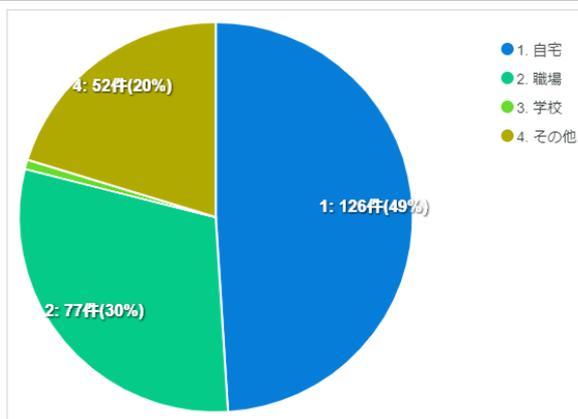
選択肢（年代）	アンケート 回答件数	アンケート 回答割合	人口割合 (R6.3 月末)	人口に対する 回答割合
① 10代未満	0 件	0 %	9 %	0 %
② 10代	1 件	1 %未満	10 %	0.2 %
③ 20代	20 件	8 %	11 %	4 %
④ 30代	27 件	11 %	12 %	5 %
⑤ 40代	84 件	33 %	15 %	13 %
⑥ 50代	61 件	24 %	12 %	12 %
⑦ 60代	44 件	17 %	13 %	8 %
⑧ 70代	19 件	7 %	10 %	4 %
⑨ 80代以上	1 件	1 %未満	7 %	0.3 %



「アンケート回答割合」及び「人口に対する回答割合」において、40代～60代の割合が高く、いわゆる“ミドルシニア世代”の防災意識（関心）が高いことが考えられます。また、今回のアンケートはデジタル（Logo フォーム）を用いた手法で行いましたが、10代から80代以上まで幅広い世代に回答頂きました。

7. Q7 津波警報発表時、どこにいましたか（個人のみ）

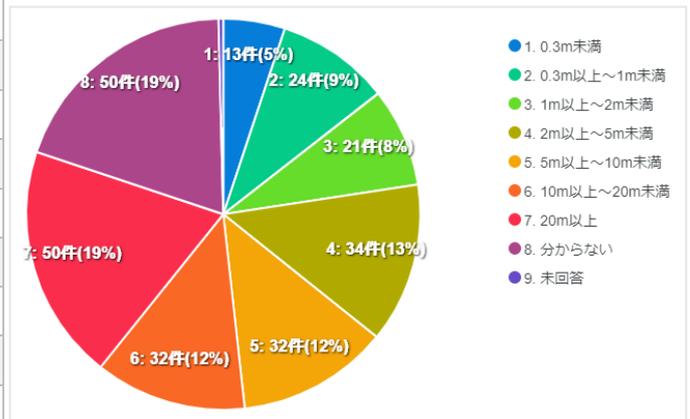
選択肢	回答件数	回答割合	備考
① 自宅	126 件	49 %	
② 職場	77 件	30 %	
③ 学校	2 件	1 %	
④ その他	52 件	20 %	竹富町外（石垣市内等）、子どもの送迎中、船上 等



平日（令和6年4月3日）の午前9時1分頃発表された津波警報でしたが、回答者の約半数は当時自宅にいたことが明らかになりました。また、竹富町外（主に石垣市）にいた方や、石垣へ向かう高速船へ乗船中の方なども多く、竹富町の地理的特性も見受けられる結果となり、様々な場所を想定した防災行動を考える必要があります。

8. Q8 〈Q7〉で回答した場所の標高は何メートルですか（個人のみ）

選択肢	回答件数	回答割合
① 0.3m 未満	13 件	5 %
② 0.3m 以上～1m 未満	24 件	9 %
③ 1m 以上～2m 未満	21 件	8 %
④ 2m 以上～5m 未満	34 件	13 %
⑤ 5m 以上～10m 未満	32 件	12 %
⑥ 10m 以上～20m 未満	32 件	12 %
⑦ 20m 以上	50 件	19 %
⑧ 分からない	50 件	19 %

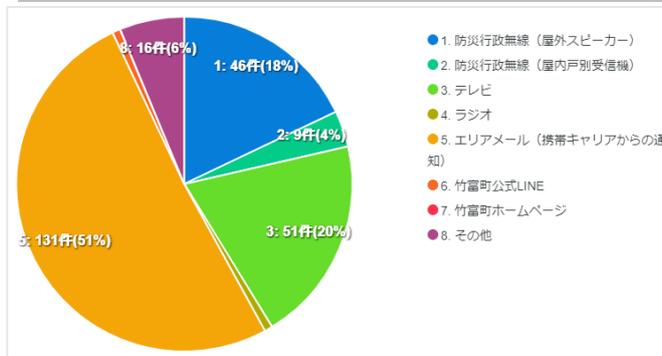


今回の津波予想は 3m でしたが、回答者の約半数近くは到達予想より高台におり、「20m 以上」と回答した方は 19%で最も多い結果となった。

また、「分からない」と回答した方も 19%（50 件）と多く、内、当時自宅におり自宅の標高が分からないと回答した方が 23 件、職場におり職場の標高が分からないと回答した方が 15 件ありました。日頃から生活する時間の多い自宅や職場等の位置（標高）を今一度、防災マップ等で確認して頂く必要があると考えています。

9. Q9 津波警報は何で知りましたか（個人のみ）

選択肢	回答件数	回答割合
① 防災行政無線（屋外スピーカー）	46 件	18 %
② 防災行政無線（屋内戸別受信機）	9 件	4 %
③ テレビ	51 件	20 %
④ ラジオ	2 件	1 %
⑤ エリアメール（携帯キャリアからの通知）	131 件	51 %
⑥ 竹富町公式 LINE	2 件	1 %
⑦ 竹富町公式ホームページ	0 件	0 %
⑧ その他	16 件	6 %

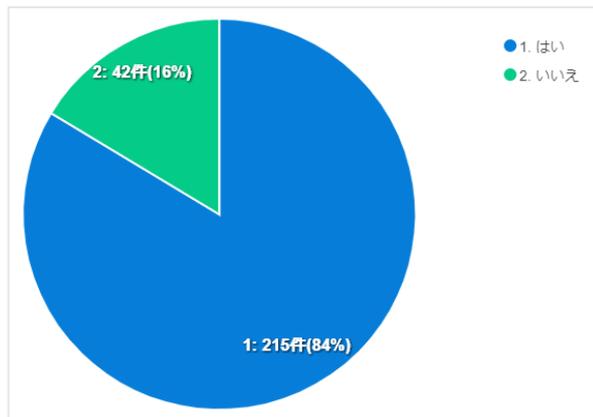


「エリアメール（携帯キャリアからの通知）」で今回の津波警報を認知した方が 51%で半数以上となり、次いで「テレビ」が 20%という結果となりました。また、「防災行政無線（屋外スピーカー）」で認知した件数もエリアメール（携帯電話）の約 1/3 程の結果ではありますが 18%となり、9 割近い方が、エリアメール（携帯電話）・テレビ・防災行政無線（屋外スピーカー）のいずれかから情報を取得している結果となった。

（携帯電話）・テレビ・防災行政無線（屋外スピーカー）のいずれかから情報を取得している結果となった。

1 0. Q10 津波警報に対して、避難行動をとりましたか（個人のみ）

選択肢	回答件数	回答割合
① はい	215 件	84 %
② いいえ	42 件	16 %



回答者において、8割以上の方が避難行動をとっている一方で、16%の方は避難行動をとらなかった結果となっています。避難行動をとらなかった要因に、「高台にいたこと」や「町内にいなかった」等の要因がありますが、今いる場所の標高や近場の避難場所、

身の回りの安全を確認し、『自分の命は自分で守る』“自助”による適切な避難行動をとる必要があります。

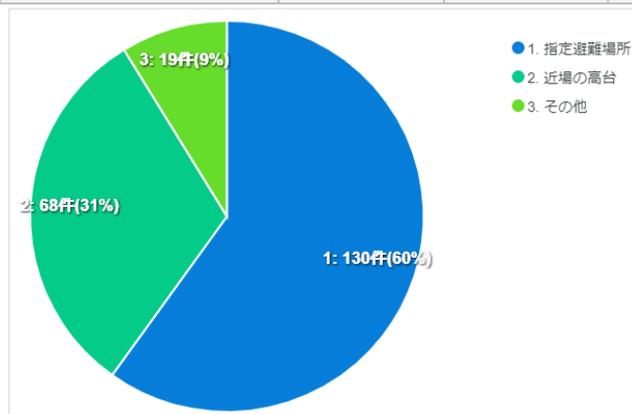
1 1. Q11 〈Q10〉で「いいえ」と回答した理由（個人のみ） ※一部抜粋

<ul style="list-style-type: none"> ・ 高台にいた為 ・ 他県にいた為 ・ 地震、津波も大きくなかった為 ・ 圏外地域（町内の山中）において、地震・津波に気が付かなかった為 ・ やみくもに動かず、自宅待機の方が安全と判断した為 ・ 体が不自由の為
--

津波から身を守る為、指定避難場所に限らず“高台”への避難は必須となります。様々な媒体から正確な津波の情報を入手し、自助・共助による避難行動が必要です。

1 2. Q12 どこに避難しましたか（個人のみ）

選択肢（避難先）	回答件数	回答割合	備考
① 指定避難場所	130 件	60 %	
② 近場の高台	68 件	31 %	
③ その他	19 件	9 %	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の垂直避難（自宅や職場） ・ 複合型福祉施設 ・ 大岳（小浜島） ・ ウナリザキ（西表島西部地区） 等



回答者の約6割の方は指定避難場所へ避難しています。次いで近場の高台へ避難した方が31%、その他が9%という結果でした。自宅や職場、通学路や通勤ルート等から近場の避難場所や高台への避難方法を日頃から考える必要があります。

1 3. Q13 指定避難場所へ避難しなかった（できなかった）理由（個人のみ） ※一部抜粋

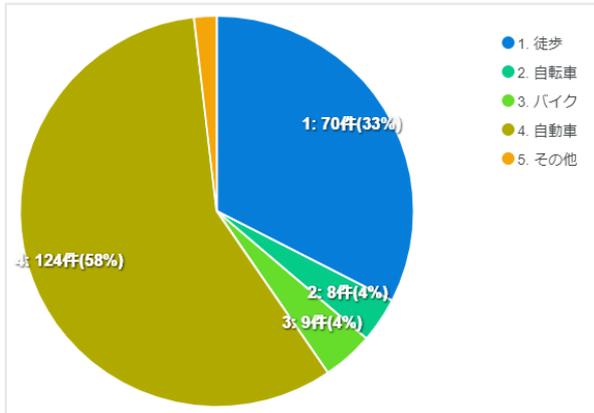
- ・家族で話し合っていて決めていた
- ・指定避難場所がどこか知らなかった
- ・自宅が高台のため
- ・指定避難場所まで遠かった為
- ・指定避難場所より高い場所へ避難した
- ・石垣市内において、石垣市の指定避難場所が分からなかった
- ・指定避難場所である学校が老朽化で不安な為
- ・指定避難場所は人も多く不安な為

その時々々の災害の状況にもよりますが、必ずしも、指定避難場所へ避難する必要はありません。しかし、安否確認方法や避難する場所、情報の収集方法等、日頃から家族や職場で話し合う必要があります。

また、石垣市内へ通院や買い物等で出られる機会も多いと思いますので、石垣市内でよく行かれる場所の標高や、近くの避難場所、津波避難ビル及びそこまでの経路等を確認することも必要であると考えています。

1 4. Q14 避難場所への移動手段（個人のみ）

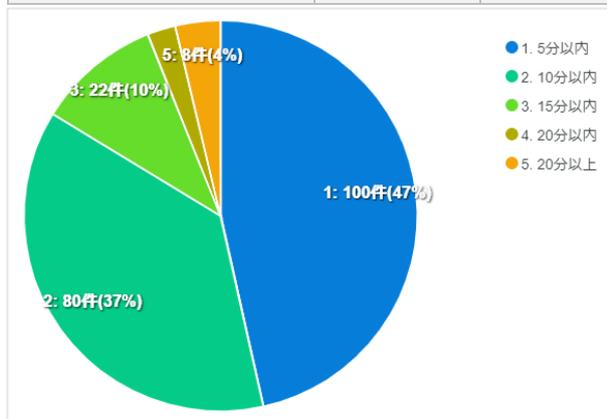
選択肢（移動手段）	回答件数	回答割合	備考
① 徒歩	70 件	33 %	
② 自転車	8 件	4 %	
③ バイク	9 件	4 %	
④ 自動車	124 件	58 %	
⑤ その他	4 件	2 %	・ 船 ・ 石垣市内で車と徒歩



避難は徒歩が原則ですが、回答者において実際に徒歩で避難した方は 33% でした。一方で、自動車での避難した方が 58% と半数以上を占め、渋滞や事故の危険性、緊急車両の通行の妨げとなる恐れがあります。

1 5. Q15 避難に要した時間（個人のみ）

選択肢（所要時間）	回答件数	回答割合	徒歩	自転車	バイク	自動車	その他
① 5分以内	100件	47%	28件 (28%)	5件 (5%)	7件 (7%)	58件 (58%)	2件 (2%)
② 10分以内	80件	37%	25件 (31%)	1件 (1%)	2件 (3%)	52件 (65%)	0件 (0%)
③ 15分以内	22件	10%	9件 (41%)	2件 (9%)	0件 (0%)	9件 (41%)	2件 (9%)
④ 20分以内	5件	2%	3件 (60%)	0件 (0%)	0件 (0%)	2件 (40%)	0件 (0%)
⑤ 20分以上	8件	4%	5件 (62.5%)	0件 (0%)	0件 (0%)	3件 (37.5%)	0件 (0%)



5分以内の避難が47%と半数近くを占め、迅速な避難が行われています。また、今回の津波警報発表時刻（午前9時1分）から津波到達予想時刻（午前9時30分）までの約30分以内に概ね避難が完了している結果であった。

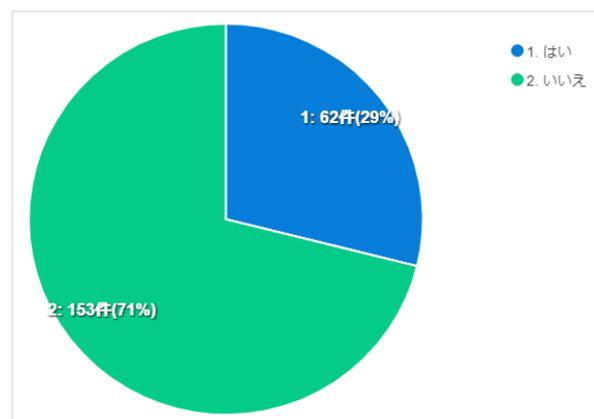
一方で、徒歩に比べ自動車の方が5分～10分以内に避難できた方の割合が多く、迅速な避難となっていますが、先述のとおり、渋滞や事故の危険性、緊急車両の通行の妨げとなる恐れがあるため、

適切な状況判断と避難経路の確認が重要となります。

1 6. Q16 避難時に防災避難リュックや、食料・飲料を持参しましたか（個人のみ）

選択肢	回答件数	回答割合
① はい	62件	29%
② いいえ	153件	71%

防災避難リュックや、食料・飲料を持参した方の割合は29%となりました。迅速な避難の中でも、3割の方が防災避難リュックや、食料・飲料を持参したことは、防災意識（関心）の高さが伺える結果となりました。

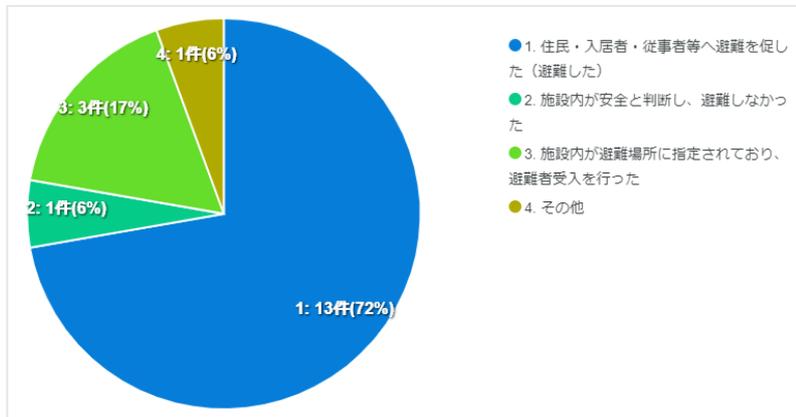


しかし、7割の方が持参できなかったことを受け止め、防災避難リュックの準備や、ローリングストック、食料備蓄等の災害時の備えについて周知・啓発を推進して参ります。

【「公民館（2件）」「学校、幼稚園、保育園（9件）」「その他団体、施設（7件）」について】

17. Q18 団体・施設として避難行動をとりましたか

選択肢	回答件数	回答割合	公民館	学校、幼保	その他
① 住民、入居者等へ避難を促した（避難した）	13件	72%	2件 (15%)	6件 (46%)	5件 (39%)
② 施設内が安全と判断し、避難しなかった	1件	6%	0件 (0%)	0件 (0%)	1件 (100%)
③ 施設内が避難場所に指定されており、受入を行った	3件	17%	0件 (0%)	3件 (100%)	0件 (0%)
④ その他	1件	6%	0件 (0%)	0件 (0%)	1件 (100%)



各団体において、住民や入居者等へ避難を促した（避難した）との回答が、大きい割合を占めており、各団体の防災意識（関心）の高さや日頃からの避難訓練の結果が出ているものと認識しています。また、津波の指定避難場所に学校が指定されているケースも多く、学校として避

難受入れを行った結果が表れています。

18. Q19 避難の際に呼び掛けや誘導等のサポートはありましたか ※複数選択可

選択肢	回答件数	回答割合	公民館	学校、幼保	その他
① 警察による呼び掛けや誘導等のサポートがあった	4件	22%	1件 (25%)	2件 (50%)	1件 (25%)
② 消防団による呼び掛けや誘導等のサポートがあった	11件	61%	1件 (9%)	6件 (55%)	4件 (36%)
③ 自主防災組織や公民館による呼び掛けや誘導等のサポートがあった	8件	44%	2件 (25%)	5件 (62.5%)	1件 (12.5%)
④ 地域住民による呼び掛けや誘導等のサポートがあった	9件	50%	1件 (11%)	6件 (67%)	2件 (22%)
⑤ 避難呼び掛けや誘導等のサポートは無かった(気付かなかった)	4件	22%	0件 (0%)	2件 (50%)	2件 (50%)
⑥ その他	0件	0%	0件	0件	0件

消防団や自主防災組織、公民館、地域住民の避難呼び掛けや誘導等のサポートがあったと回答されている割合が多く、“共助”による避難行動が行われていることが分かりました。

【「消防団（15件）」について】

19. 消防団として活動した内容 ※要約

- ・ 消防車による避難呼びかけ
- ・ 防災無線の届かない地区への避難呼びかけ
- ・ 集落でも高いところへと避難を促した
- ・ 福祉施設へ避難呼びかけ及びお年寄り世帯への見回り
- ・ 避難場所運営
- ・ 高齢者世帯への避難指示及び避難補助
- ・ 避難所案内後取り残された世帯がないか確認及び避難指示、避難補助
- ・ 津波の公民館からの緊急避難呼びかけの放送
- ・ 住民の見回りと所在確認、海面変動監視、情報収集管理(確認と連携)
- ・ 避難所の会場設営、避難所住民の名簿確認と避難者の体調管理、不安緩和等々の活動
- ・ 避難場所への緊急物資の運搬、海岸線の警戒、避難終了後の片付けなど
- ・ 近所の独居のお年寄り、老夫婦だけのお宅を周り、車に乗せて避難所まで運んだ
- ・ 避難者へ飲み水を配布した
- ・ 避難者への現状などの連絡
- ・ 急搬送車での高齢者等要支援者の避難補助
- ・ 避難場所での参集人員確認
- ・ 団本部へ避難完了と避難解除の連絡
- ・ 公民館長への被害有無の確認
- ・ 潮位変動の確認（少し離れた所から）、非常時用飲料水の配布

避難呼び掛けや、要支援者への対応、避難所の運営等、幅広く活動されており、地域の消防防災の要として、大きな役割を担っています。

【総括】

新年度がスタートした矢先の、地震発生及び津波警報発表となりましたが、平日の日中に起きた災害であったこともあり、大きな事故や被害も無く、大事に至らなかったことは何より良かったことだと考えています。

また、改めて災害の恐ろしさを思い知らされると共に、防災・減災について考えさせられることとなりました。これは、今回のアンケートの内容にも現れており、多くの町民の皆様が防災・減災を“自分ごと”として捉え、アンケートへの回答や、今回の避難行動の振り返りにより、改善を要する点や気づいた点、行政に対する要望等について、多くのご意見を頂きました。今回の災害を教訓に、地域防災力の向上に向けて、行政（公助）としての防災・減災事業の強化や見直し、自助共助による防災活動の推進を図る必要があると考えています。

行政（公助）としての防災・減災事業の強化や見直しについては、今回のアンケートにおいて、「避難場所の環境整備（屋根や水道、トイレ等の設置、老朽化対策）」「備蓄物資の充実」「防災無線の放送が聞こえない（聞こえづらい）」「防災無線等、多言語による避難呼びかけ」「LINEによる情報発信が少ない」「観光客の避難誘導」等々のご意見を頂いていますので、これらを真摯に受け止め、課題解決に向けて、環境整備や情報発信の多様化等に取り組む所存です。

また、改めて、「避難の原則は徒歩」であること、防災避難リュックの準備や、ローリングストック、食料備蓄等の災害時の備えの重要性、防災マップ等による警戒区域の確認等について周知し、防災に関する啓蒙活動への取組も推進して参ります。

自助共助に関する防災活動については、「自分の命は自分で守る」「自助」の重要性を再認識して頂き、自宅や職場、よく行く場所等の標高の把握や、最寄りの避難場所までの避難経路の確認、家族で防災について話し合うこと、防災避難リュックの準備等について、今一度自分でできる防災・減災対策について、町民一人一人が心掛けて頂きたいと考えています。

また、協力し合う“共助”についても、地域における要支援者の把握や、自主防災組織の立ち上げ及び活動の強化等、各公民館単位で防災・減災に対する取り組みの実施が重要となると考えています。公民館毎の行事が盛んで繋がり強い竹富町だからこそできる、公民館を中心とした防災・減災への取組の継続及び強化を推進していく必要があります。

更に、竹富町は日々の生活の中で、石垣市と密接に関りがあり、通院や買い物等で多くの方が日々、石垣市を訪れているかと思えます。石垣市で被災する場面も容易に想定できますので、よく行かれる場所の標高や、近隣の避難場所及び避難経路等についても確認する必要があると思われまます。

最後になりますが、災害はいつどこで発生するか分かりません。その時々で状況は変わります。自分の命を守るため、そして大切な人の命を守る為、常に防災の意識を持ち、適切な状況判断ができるよう官民が一体となって、災害に強いまちづくりを共に推進していきましょう。